

審議会等議事概要

平成21年度 滝川市環境市民委員会（第22回） 議事概要

日 時	平成21年10月29日（木曜日）午後4時～
開催場所	滝川市役所2階 201会議室
出席者	委員：岩本委員長、伊藤委員、小野委員、奥村委員、加藤委員、木村委員、 中村委員、水戸委員 事務局：市民生活部長、くらし支援課長、橋本主査
議 事	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>（1） 前回会議の検討事項等について</p> <p> 前回の会議で指摘等のあった事項及びそれらへの対応方針として事務局の考え方について、資料2のとおり整理した。特に、事業計画の提示については、来年度に計画の見直し作業を控えているというタイミングの問題もあり、計画と評価方法を一体的に組立て直す必要があり、そのときに改めて検討させていただくということで了承をいただいた。ただ、来年度に行う21年度の評価は今年よりは、より多くの材料を提供することで改善を図ることとする。</p> <p> 資料7に添付している年次報告書を、市は最終版として公表させていただくことで了承を得た。</p> <p> その他、次のような意見があった。</p> <p>・ 環境に関するネットワークの構築に関連して、人材育成という観点から、例えばeco検定（環境社会検定試験、東京商工会議所主催）といったものがあるが、これを町内会で一人くらいの割合で受験料への補助をするといったことも考えてもよいのではないかと。単に講演を聞くだけの受け身の姿勢でなく、こういったことでより身につくのではないかと。こういった方が地域の中で指導的役割を果たしていくことにつながっていくと思う。</p> <p> エコ検定の過去問を昨年の環境学習リーダー養成講座のなかで資料として付けたことはある。これへの受験は別としても、学習会とセットでテスト形式で切磋琢磨しながら、自分の力を発揮できるような場をつくることでよりやりがいのある講座になるかも知れない。（事務局）</p> <p>・ 世間では、鳩山首相のCO2の削減目標が話題になっているが、市としての取組などは行われているのか？</p> <p> 現在、省エネルギー、ひいては温室効果ガスの削減にもつながるような調査</p>

研究を進めている。省エネというと、まず、ソフト的な面で照明は、こまめに消すといったようなことが浮かぶが、実は省エネルギー技術というものがあるといふとあり、人々の意識だけに頼るのではなく、技術で省エネや高効率利用をカバーしていくものがあり、市としてはまず公共施設が率先して、こういったものを含めて、どのような省エネ対策が採れるかといったことを総合的に調査検討している。（事務局）

（２） 評価報告書作成に向けての検討について

10名の委員皆さんの意見を集約して評価報告書づくりを進めていくということ考えたときに、実際問題として何らかのたたき台となるものが必要であろうということで、事務局から前回の意見等を参考に資料6を用意させていただいた。

ただ、この場で直ちに具体的な修正意見や新たな意見などを示されることは困難であると考えられることから、この後、早急に意見等の提出様式を作成・配付させていただき、11月中旬前くらいまでに御提出いただくこととする。それをとりまとめた上で、改めて議論の必要の可否などについて、委員長と協議をさせていただき、例えば軽微な変更程度であれば、それをもって最終案とし、委員皆さんにお示しさせていただき、了解を得た。

（３） その他

その他の意見、質疑、情報提供等について

・現在行っている省エネモニターでは電気だけを対象としているが、本来のCO₂削減ということを考えれば、必ずしも電気使用量だけの削減を目指しても、厳密には削減に結びつかない場合もあるが…。

御指摘のとおり、そういった面は否定できない。同じ料理を作る場合でも、IH調理器を使ったり、電子レンジで下ごしらえすることでガスコンロよりもCO₂の排出が少ないといったケースもあることが考えられるが、そもそもなぜ、電気だけを対象にしたかといえ、多くの人に参加いただくためということが大きい。複数のいろいろなエネルギーの使用量を記録しなければならないという煩雑さで敬遠されることを避けるためということと、電気使用料金の通知には前月及び前年同月の使用量のデータが記載されており、自分でそういった過去のデータ蓄積をしていなくとも、すぐに比較ができるという点が決め手となった。ということで、あくまで省エネルギーへの意識付けのきっかけとしての面がかなり大きく、実質、CO₂の排出削減だけ考えれば、改善の余地が大きいことは認めざるを得ない。計画の見直し作業でも、何らかの改善について是非議論していただきたい。

・國學院大学（北海道短期大学部）には市外、特に道外出身の学生さんも多いことから、滝川の環境の取組などを積極的にPRしていくことで、また地元な

	<p>どに帰ってから、滝川のおよき宣伝マンになってもらえるのではないかと。学生さんは非常にパワーもあり、そういった活動にも積極的に関わってくれるはずなので、学校側と連携して、そういった講座を持たせてもらうなどの努力も必要ではないか。</p> <p>・例えば、多くの地域ではまだまだ生ごみは分別する習慣がないので、滝川に来てとまどったという例もあると思うが、そういった取組について、なぜそうしているのかなどきちんと説明をしてあげることによって、よりいっそう理解が深めてもらえるのではないかと。</p> <p>面白い着眼点だと思うので、今後、実現していけるよう努力していきたい。 (事務局)</p> <p>3 閉 会</p>
<p>会議資料</p>	<p>会議次第</p> <p>資料1 前回の委員会における意見及びそれらへの対応方針等の整理</p> <p>資料2 数値目標の考え方</p> <p>資料3 滝川市環境市民委員会評価・提言検討シートの意見集約表</p> <p>資料4 たきかわ環境ネット(仮称)の構築について(案)</p> <p>資料5 滝川市の環境施策に関する評価報告及び提言書</p> <p>資料6 たきかわ「環のまち」物語 年次報告書(平成20年度版)</p>